

日本における金環日食（2012年5月21日）への取り組みとその成果について

ーリスク・コミュニケーション面からの検証ー

日本天文学会 2012年秋季年会 記者会見 当日配布資料

Y24a 日食観察グラスの安全性について

(齋藤 泉, 海部宣男, 大西浩次, 安藤享平, 飯塚礼子, 大川拓也, 大越 治, 小野智子, 阪本成一, 佐藤幹哉, 篠原秀雄, 塩田和生, 塚田 健, 船越裕海, 洞口俊博, 松尾 厚, 三島和久, 森 友和, 山田陽志郎)

齋藤 泉 (2012年金環日食日本委員会/天文教育普及研究会 日食の安全な観察推進WGリーダー)

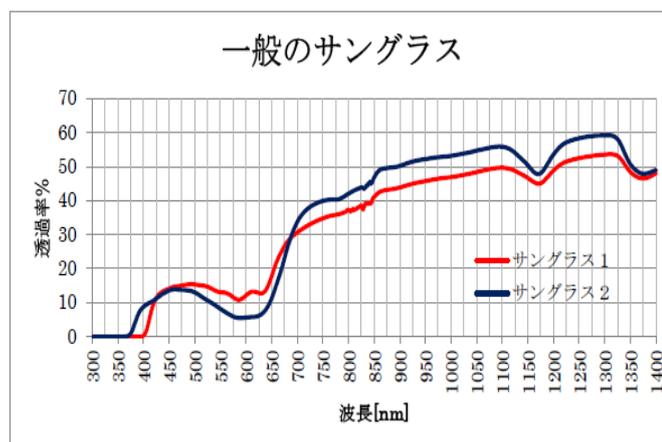
【全国で日食】

2012年5月21日(月)の朝、日本全域で太陽が大きく欠ける日食が起こった。特に、神戸・大阪・京都・名古屋・横浜・東京などでは、月が太陽を隠しリング状に輝く「金環日食」となったが、全国的にはやや曇りがちの天気となった。



【日食観察グラスの透過率】

天文教育普及研究会・日食の安全な観察推進WG（日食観察WG）は、2008年以来、日食（太陽）観察グラスの安全性の研究のために、市販の各種日食（太陽）観察グラス（約40種類）および、その代用品として使用される可能性のある物（下敷きやすすガラスなど約20種類）の透過率を測定してきた。



一般のサングラスの透過率

【安全性の目安（基準）】

日本には、太陽（日食）観察用フィルタについての規格は無いため、その安全基準について調査を行い、欧州標準化委員会（CEN）の規格（EN1836:2005 + A1:2007 (E)）、可視光が0.003%以下、近赤外線3%以下という値を安全性の目安として採用した。

【講演】

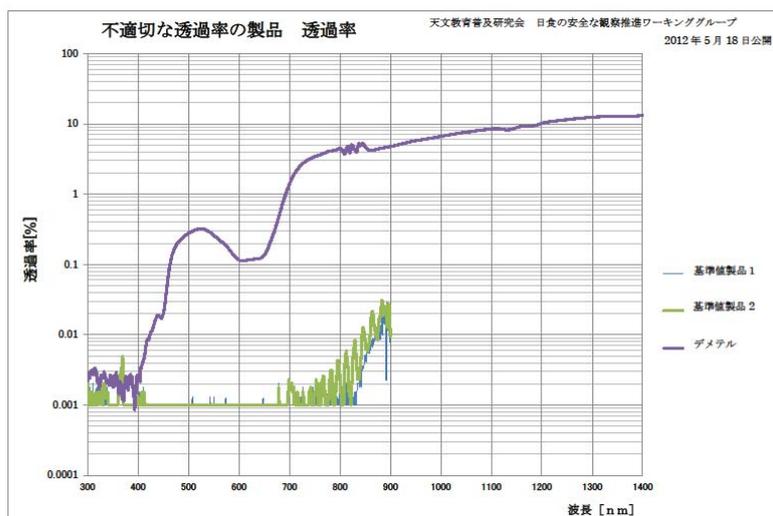
本講演では、各種フィルタ類の透過率について報告する。以前から使用されてきた、下敷きやススを付着したガラス板およびカラーフィルムなどは透過率が高く観察に適さないことがわかり、これらの測定結果をホームページで公開し、金環日食に向けて安全な観察を呼びかけてきた。

☆不適切な透過率の商品への対応

日食直前の5月10日に、高い透過率つまり危険性が高い商品がインターネットで販売されていることが明らかとなった。この商品が見つかったから消費者庁消費者安全課において公表されるまでの経過についても報告する。



蛍光灯のよく見える日食用グラス



不適切な製品の透過率

☆目の障害の発生状況

日本眼科学会及び日本眼科医会で調査し中間報告が日本眼科学会のWebに公開されている。その最新の報告では958症例であり、人口から予想された数千人規模の日食網膜症の発症は防ぐことができた。

☆規格化の必要性

日本において規格が無いために、不適切な透過率の商品が販売され、製品の販売停止・回収を迅速に行うことが出来なかった。今後の日本での太陽観察グラスの早急な規格化に向けて、安全性の面から提言も行う予定である。